

## 巻頭言：新たなる出発にあたって

—— 教育センターから3センターへの改組 ——

橋 本 隆 司 \*

それまで教育センターが担っていた業務を分化、特化することを目的として、令和3年度4月1日に、教育センターが改組され、高等教育開発センター、教養教育センター、データサイエンス教育センターの3つのセンターが発足することとなりました。すなわち、教育プログラムの自主的な質保証及び質向上に関する取組みを支援することを主たる任務とする高等教育開発センター、いわゆる教養教育に相当する全学共通科目の企画運営を主たる任務とする教養教育センター、および、近年のデータサイエンスに対する必要性の高まりの中で、数理・データサイエンス・AI教育に関する企画・開発や教育プログラム開発等を支援することを主たる任務とするデータサイエンス教育センターの3つのセンターが新設されました<sup>(1)</sup>。それに伴うかたちで、旧教育センターが発行母体であった本紀要も、教養教育センターの機関誌として新たに出発することとなりました。

四半世紀以上前に日本全国で巻き起こった大学における教養部解体のあと、最近再び、教養教育の重要性が認識されるようになったことは、個人的には複雑な思いがします。あの当時を席卷した、教養教育を軽視し専門教育を重視する動きは、一体全体、何だったのだろうかと思わずにはいられません。さらにその後の国立大学法人化については、それ以上に疑問符だらけ。単なる行政のコストカット以外の何物でもなく、大学教育、ひいては我が国全体の研究能力の衰退を招いただけの感じが否めません。

閑話休題。教養教育に携わる教員が自らの研究を発表する場として、旧教養部が発行していた鳥取大学教養部紀要を受け継ぐ形で教育センターが発行していた教育センター紀要ですが、さらにそれを受け継ぐ形で、教養教育センターが発行し、紀要が存続することになりました。このことには安堵感を覚えると同時に、鳥取大学の教養教育の質を維持、向上させるため、教養教育に関係する教員にとっては、自らを研鑽せねばならないという思いを強くいたします。教育と研究というのは表裏一体で、日々の研究なくしては、質の高い教育を行い得ないということを、今頃になって実感している次第です。

ここ最近では、紀要の原稿集めに編集委員の先生方がたいへん御苦勞されていると聞き及んでおります。自身の研究を進化させ、引いては鳥取大学における教養教育の質を高めるためにも、高等教育開発センター、教養教育センター、データサイエンス教育センターの3センターに所属されている教員の先生方には、奮って本紀要に投稿されるよう強く希望いたします。もちろん、3センター以外の先生との共著による投稿も大いに歓迎いたします。

最後になりましたが、令和4年3月31日をもちまして、外国語部門の福安勝則先生が定年を迎えられます。福安先生、これまで長年にわたって鳥取大学の英語教育の運営に貢献いただき、どう

---

\* 鳥取大学 教育支援・国際交流推進機構 教養教育センター長（データサイエンス教育センター教授）

もありがとうございました。この場をお借りしてお礼申し上げます。また、3センターに所属されている先生方、並びに3センターが、鳥取大学にとってかけがえのない存在となり、かつ、益々発展、活躍することを祈念して、筆をおくことといたします。

#### 註

(1) 正確には、旧教育センターが教養教育センターと名称変更し、他の2センターが新設された。